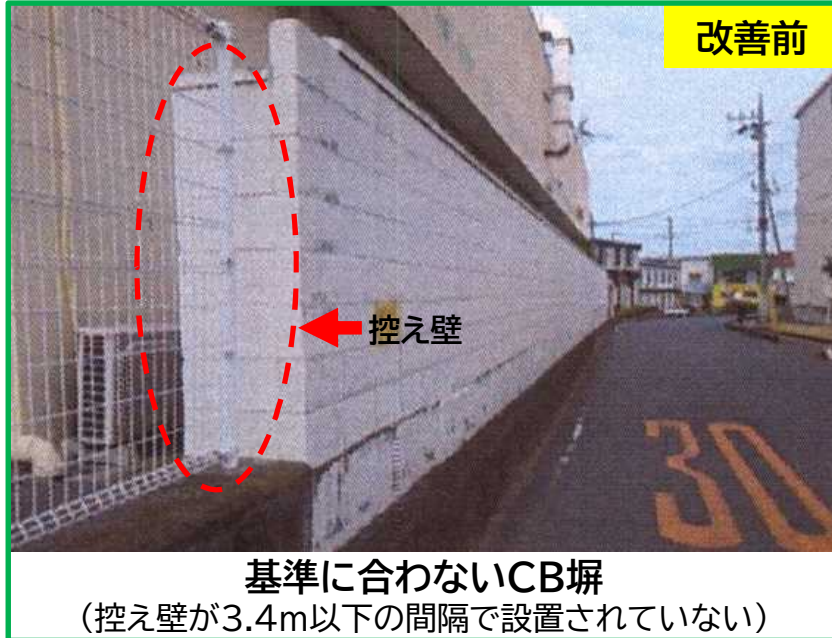


地震対策のお願い

1. CB塀の倒壊防止

○コンクリートブロック(CB)塀の改善事例



～ポイント～

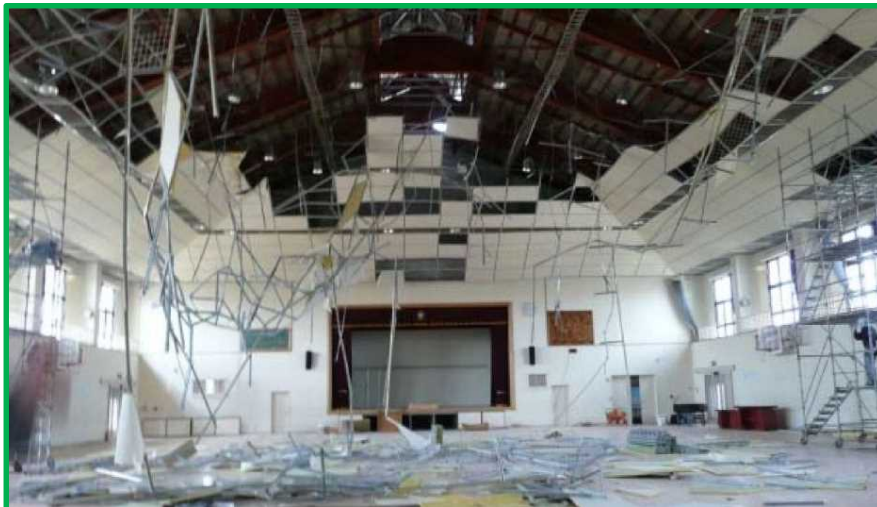
- ・ CB塀の倒壊による人身事故がH30年に大阪で発生しました。
 - ・ CB塀は、施工方法の基準に適合しない場合、転倒など倒壊の危険性があります。
(基準への適合状況は、定期調査報告書の副本に記載された調査結果状況をご確認ください。)
 - ・ CB塀の多くは道路や隣地の境界に設置されています。
そのため、倒壊した場合には第三者に危険が及ぶことも想定されますので、特に通学路などにおいて基準に合わないCB塀が設置されている場合は、改善の検討・対策をお願いします。
 - ・ 危険なCB塀等の安全対策工事(撤去等)に関する補助制度を設けている市町村もあります。
- ※ 詳細な基準や点検のご案内、補助制度を有する市町村窓口については、茨城県建築指導課HPをご覧ください。



2. 天井の落下防止

○平成25年に建築基準法の改正により追加された特定天井に関する注意事項です。

- ・ H25年の建築基準法改正以後に特定天井の改修を行っていない場合は、現在の基準に合っていない可能性があります。(定期調査報告の調査結果表4.(25)「特定天井」の結果が「既存不適格」となっています。違法な建築物ということでは有りません。)
- ・ 現在の基準に合わない場合、大規模な地震があった際等に天井材が落下する可能性が有ります。天井の落下は大きな被害をまねく恐れがあるため、早期に適合させることが望まれます。



東日本大震災時に天井材が落下した事例
(地震の力で建物が揺れ、天井材が落下した状況です)

～ポイント～

- ・ 安全確保のために、現在の基準に適合する改修や、それまでの間のネットやワイヤ等の設置などにより天井材の落下対策等をお願いします。

特定天井とは

次の3つの条件すべてに合致するもの

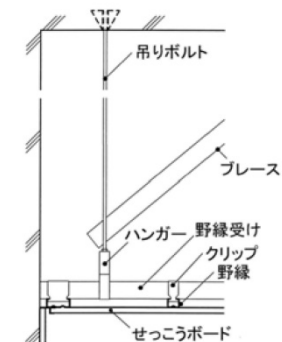
- ・ 天井が吊り天井である
- ・ 高さが6mを超える天井の部分で、その水平投影面積が200㎡を超えるもの
- ・ 居室、廊下その他の人が日常立ち入る場所に設けられるもの

吊り天井とは

- ・ 天井材(ボード等)を金物等の吊り材を用いて建物に取り付けている天井

改正内容は

- ・ 特定天井の脱落防止基準を新たに設けた



吊り天井の例